



▲自分の健康は自分で

## Q 健康日本一の村政策を

## A 健康で安心の地域創り

### Q1

18年度決算によると、村の財政力指数0.61で村民一人当りの借金は34万円程となっており、県内では比較的裕福な財政事情と言われている。170億で基金の取り崩しも行われている。



山 谷 仁 議員（新志会）

このような状況の中、村の各担当者も住民サービスに努めています。限界にきているように思います。

村民は安心・安全な健康を最も望んでいることがアンケート等から感じられます。

村のすべての政策を「健康」になれるという視点で捉え進めていくべきと考えるがどうか。

### A1

健康は目的ではなく、心豊かなに自分らしく暮らす大切な条件で、「地域が健康になるか否かは、そこに住む人々が健康か不健康によって決まる」とも言えます。

村地域保健計画及び、老人保健福祉計画を第5次総合計画の基本計画「元気に暮らせるまちをつくります」の分野別計画として位置付けています。「自分の健康は自分で守る」を基本とし村も取り組んでいます。

### 前村政での職員半減策は

### Q2

前村政では住民協働を進め将来、職員を半減しコンパクトな行政経営を目指すと言われておりましたが、現村長は将来を見通した上でどうしていくのか。

### A2

現在の300人体制維持。地方分権の時代に自治体間競争を生き残るために行政改革の一つとして住民参加を進めながら組織の効率化を図り小さな自治体を目指すということで職員定数削減という表現をしたものと考えます。実際には、後期高齢者医療制度による人員派遣など、事務事業も増える状況にあることから、第3次定員管理計画を策定してまいります。

## “新志会” 予算編成に関する要望書を提出

新志会は、自治の精神に則り、行政に「何をしてくれるのか」を問うのではなく、「私たちは何ができるのか」を追求実践することを理念に山本博を代表とし9名のメンバーで構成し活動しています。

20年度の予算編成に当たって、要望書を提出することとし、5月から10月にかけて関係当局のヒアリングを含む15回に及ぶ研修会と先進地である姫路市・箕面市の研修を実施し、要望書を作成し11月9日提出いたしました。

### 平成20年度滝沢村予算編成に関する要望書（抜粋）

新志会としては、本村の財政は県内において比較的良好と言われておりますが、中・長期的には厳しい状況が予想されます。加えて国県の動向や、社会経済情勢を的確に踏まえ、限られた財源を効果的かつ公正に役立てていかなければならないと考えております。そこで、村政発展と村民生活向上のために積極的に提案して参りたいと考えます。

#### 重点要望（要約）

#### “健康日本一の村をめざそう”

- 1 健康日本一の村をめざし、健康づくりに向けた政策を強化すること。
- 2 一貫性のある村独自の子育て支援策と教育プランを策定すること。
- 3 雇用の拡大と自主財源の確保のために産業振興を積極的に振興すること。
- 4 行財政改革を更に推進すること。

ほか、さらに各部毎に27項目の要望をいたしました。



柳村村長に会派要望書を提出する（左から）柳村 一・鎌田 忍・長内信平・山谷 仁・高橋盛佳・山本 博・佐々木剛・遠藤秀鬼・佐藤美喜子

『村民のために  
実現されるべきものが、  
本当に実行されるために』